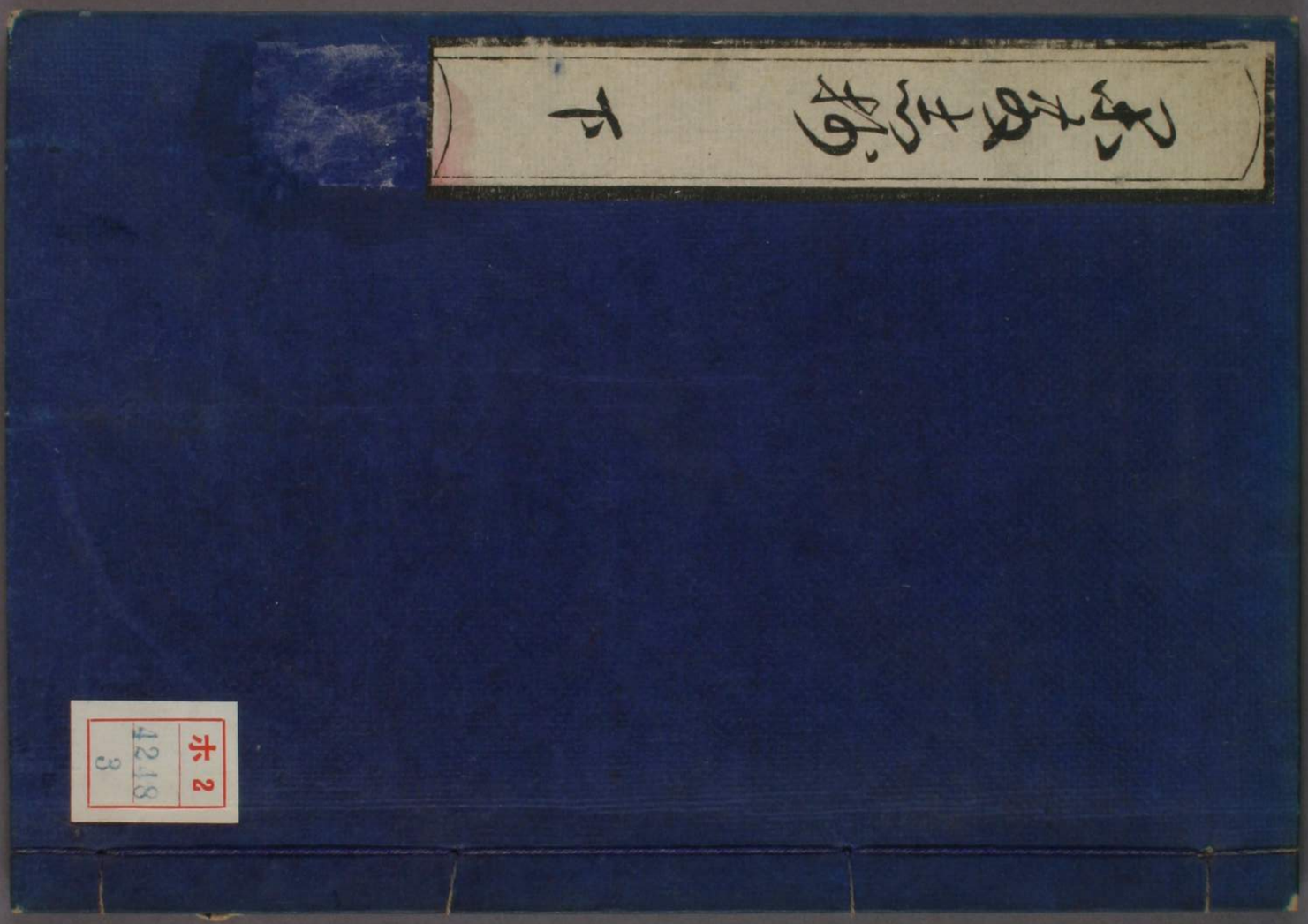
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



利
374
3

東京日日新聞社
第二号
巻3

かさね抄下

不盡谷氏日傳　門人　吉川彦富
山口高端　筆受

一　る　る

る　るんだとしてそこに里[そこら]といへ非情なものをさしぶ古言なるべしわかくよりあり八代なほいはゆるすくあるとまのすむとしてるるの名いふ（森）（声）うるるするるる里はあまるるはれるるる

二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

於 ことのねいるそやかいるとうこ　何ギヤツイ　あるうあるとうれをほつとめ　スミツテ
狩 あのとうふようけきかくもあの　テミニフタ　何ギヤツイ　かねんへうるそやうりき
るとて　なとう　るとう　るとて　なとて　か、

古 なとて　墨るぜるぜるよとて　ぐうくとぐめうこぐひる何るり。
但あのうへうよこぐ来てよりうとうり

古 るとりせ　シタ　能ちそ能かるくこ　モセヌニ　なぜ　郭あうるやうんめのうん　テミモダデロボ
ね 人ちきこ男ハそけも多をハ　なぜニ　なとて　かうきあうきうて　イヅ　閑

るとう　るどハよよ同じ　か　乃ち例の下へまうてなるべし。
又なぜうと尺しても何るので　なぜきとよ何るり

古 うきせよハかとうもやうとも　イテアル　みるくこ　モセヌニ　なぜ　わるれ出てふする　ニクウ　カ
於 ぐるうるめあを別もゆ　イニンくこ　シイニ　きをうつを　ダギツテ　なぜカ　なとうあへきあるる

なとか　墨るぜぞのとて　るぐうよりもつよハよるり
及 今まてなるとうハ花ぬきうすて　ニ井テ　ようとせなり　まりハする
るうて　墨るんでどうハるけでとて

於 あのこうりとくるまもなきあるまりるとてそハつ浸　デルルデロボ　ナニデ
伊ドウ云ワケデコヤウニ
るとてくあをこうこうよ　テミニフタ　デアロボ　スイ　シタ　ぬをん水わうきとむるのめを

なとて　るどて　乃ちるり。但とハぐめて。きうるへを
さをてれくこうあり。墨るんで何ぞのとて

楽 みちうへてすりけるめをる　モギヤツ　ナンデ　ダギツテコレハ　タ　ジイ　るうけるあけん
るよ　なふて　るよりせんよ　なあう　るにうも
ぬにハか　何とて　何そハ　るてう　なるかハ

墨何ハよ又何のるあるとて

花よあてるよかへるんなかはるのへはなるまゝを
ちぬんぬちぬきてんもるまゝあをるよ山路乃花さゝすん
又里言よるのゞきをうにゆるゞにあるゞ
ちまゝ事ゞうちまゝの何ごとるよのるゞいゝちゝ
ちゝ外何を何とるゞよあるゞひゝちゝるの
るよにるとかるゞいゝ仕すゝとゞひるゝをゝゝり
なゝちんゝ　もゝしとかるの
あひゝるゝいゝひゝそぬゝれゝるゝせゝ何ゝよゝるゝあて出ゝゝあげん
ハゝをむゝゝゝゝゝゝゝをゝゝゝゝゝゝゝ

藥
るにこ〜かて人もまてうんいてにしく（ナイ）ねんいそまうる社乃ふさと

るふとて　里　何とらく公て　又どうかたちづつて　といふ　ぞうれ

未こをとうめくうるもて犬うる　るどて　と同　公てかつうきも

変（ヤウニ）乃こそうすを掛いるりけ（イモノチヤ）ると何（ナント云心デ）て人まあをこつ（タンデアラウ）む

羽　とうあまをうしはまよけくう変乃るにとて松よかくらをそあけ（ドウ心エチガフテ　タンデヤ）

るふて　里言ぞうしう掛ぞ　どうそうこうるぞ　といふかうる

すぞ　ゆかれ

於　変かこをらつへうれと移（ヒツナコバ　ナレド）

るうそて　里　何ぢやいてこやい　れ　といふもつうとひつめ

るるうれ羽や

古　かいるふ山るかそいありてあるうひいきてもとまくぬるよ松うれ

何ぢヤ云ニミヤレ

何（カイ）ぢヤ云ニミヤレ　人乃ふるすそ　ハ変（ヤウニ）ぬ（ヤニ）ふ（ヤニ）をあふる（サ）かへいるをうるうにに（ウモナイモノ）

なふう　里　るんの　とうくふ掛下に　ぞ　とうくるいあり

古　るすうそのるうふうそのをうしてまくふ祝ひとうかて

於　うれるうこうもれうきふうれいを人をなふうこひいき（ナニ　ウウ　ルウ　ジ）

又一例　里　るんのいう　何とうふるふ　といふ父ふ

羽　かくかく羽やううそていふふる

羽　のうう人のうをまうこうふ（ナニ）ふうこみうふうるかあすこあを（テニヲヒヲナ）

又うもうふ何のふうしかるぞまるどうあるふ学て何そて

かぞうふいあうぞ

るていふ　るふう　とるるぞうて例のとうひつめうる羽やまうり

るんの　とうふて下ふ　ぞいの　とうけてんるべし。新古しよ

何うめて何うえすぐく世中ハとゝあるも なふらといく
かゝるめをみるぬべし
古 むそ玉式部卿宮
なるふかくさまうつにふるもあるねつを
花 あくいるゝ春乃をりしんくるとも人ハなけうまし
又 何の乃一例のやうにうそるもあり。里 なるいるゆ
があらうでいのといふ心也
木 ヒキ、リ
ゑるゝ春よ春るゝ何ハ春ハいまてかハけきこゑ春すハ
なへて
るへて 里 どしらまるに うらるめて ろどいなゝべ
ろしるりに為仲ハけるゝ公るり つまて乃ゝとゝ知べ
古 梅花ろしもゝ久るの春ハるゝ春ハるへてゆ

なゝ
るゝ 凡 ハ ハすゝらなゝ春ハ るゝ とかくぶるを。今ハ
なゝを とかくハあやまれり中ごろの世までも るゝ とかきゝ
へるを。ゆゝ世よハ。ゆきこゝへりとゆゝなゝるとハ。
木のすゝわるゝなゝもるゝ。すゝなるやうにゝゝるゝ
ありけまるゝ也。古今ゝ也るゝあらゝるゝあり。
文よもゝかくかゝり
木 ゝ ハ ハ ゝ ゝ ゝ

いろ〳〵ぶてんの花りみだるるどゝ花をゝりてゝ
ゝをゝるゝに枝枝るどゝとまてゝ木ゝまよあへど花も
さそぶ枝乃ちぐるゝゆゑ
くてあるゝらなゝ

[全つぞり]るどゝ

[枝]とあるゝ花のさるゝにゝかゝるゝゝ枝ゝふるさとゝ
ゝきゝゝ乃ゝゝ枝ゝるゝゝ
ゝのゝゝ

いそのゝゝ
ゝのゝゝ
かゝるゝゝ

[全]ゝ枝乃ゝゝ

るどゝ花ゝゝゝ

八

えゝや

[えゝや里]　[ゆうえゝや]　とらゝ俗下ようあつゝ[ゆ]ある時ハ[えゝやいやと]

といゝ

古今ゴロハモハヤ　ゝゝふゝゝゝゝゝゝ　ウモノギヤニ　ゝをあいゝんとゝめ夕　事ゝ　何シニゾ　めらなりしゝ

ハ　すこのゝゝゝゝ　外デモナノ　ゝゝ　イヤデ有ダガ　ゝゝ　モハヤ　ゝゝゝゝゝ　モモタノ　ゝゝ

ハ　大ゝゝゝゝゝゝ　ナヤ　ゝゝゝゝゝゝ　ナヤ　ゝゝゝゝゝゝ

ハ　ゝゝゝゝゝゝ　チヤヤ　ゝゝゝゝゝゝ　タヅ　ゝゝゝゝゝ

九

ゝゝ

[ゝゝ]　[ゝ又]　ゝ合ゝり但ゝゝゝゝゝゝ

十

つゝ(イヒド)ゝとうゝんとゝ(バトニテ)ゝ(ナリ)ゝ(ナリ)ゝ(ナリ

かくるもひなこれりよむごまをいて
伊 うくれもかるつきものをひこてあるよ和をや人乃ちひすちん
伊 みよりちくれむろかりもひろ和ちくるあうかくうそよるとなくるる
まくる

まくる 二例ありいづれも里言葉又とひるくり一例又
ろくよ乃ふたり
伊 和くろう物ちて人に又もあひしとちへて水乃下にをあるとけり
千 ひいなするあ下安の神ちまくる又ちくれあるりさあ乃中山
二例又ちかりひくてび乃ふた
伊 とてよりみこるりめ月和ちくい又山乃ちくり入金に家むし
伊 あ源してまくる代よりめ袋ちを又をちねてれ

古今ちよれんてと又まくるもみまくれりれどとよあるよハ
一例乃又るり下ハ二例乃又るりくれもかくハ尺ずれも
ちれのまくるるるやうそるれバ二例只ひちよかへる也
まくる まくき

まくる 里言 いまぐとあるり乃也上古ハまぐとよまぐ中比ち
和のうちあちよりちて まぐ いまぐ まぐへよりちき世
よハ又 いまぐとよまぬやうそなれるハ只むし今れわる
るりさておのづくる まぐ ハまぐ りかくときこゆ
古 文ちくまくちよひるを和めりをこちれいつこちよ月やとるくん
枝 ちひつまくるいいちめぬ和ちひをるり乃ふちもてるる

まくれ 里 ちやうくる 又まぐーいよとて朔まぐき起てるど

いふをおくべきかはらのまぐらにてぬるかぜもそ
古まくらねぬまのうきはのうへのつゆ（ハヤカラ）ぬるハ君のかりのやどかとあんん
（チアザトウ）（何ナニモ）ろかくそ後の世までと契ばまくまこてはさへもかるるをと

十四 まことに

まことに 里 ゆんよ ゆんぼんよるどうぐめてかづまてる
よ乃月やはぐくりに来ものうをあるもあるまことを
やとかきてるも此ところそより
つゆよりもたのやすそうつるとしてこのれへ
ホンニ（ドウニアロウ）ふるこゝろまことにたのをいるるんくふ部よあとふるの
（ハ）（シモゼンハ）（テウド此トホリ）なつくさそいあまてとちまてはつゆ（ホンゴ）ねとに人のとうをそりぬる

十五 まゝ

十六 まゝ

まゝ 里 伊のうさいかいてまゝあ 伊のうるいはまゝあ 又 一ぞんげよ
るどうぐをたくさんしておけさるるかの
古 秋くあるる秋ふ（デハギツテモ）もあるいて出のねまけいまつそるのき
（ナイノニ）（何カナニミニ）（置テコモヤ）
ばくりくそうてもせんかへるさのかりるくいまゝわるとよまけ
又 ゆりまゝ とあるわをバ さ乃をこそ里にゆ
古 まつ乃ゆりをそこてそかつりめつまくをつりまくをつこんとそ
（コチヤ）（アヒモタ）（サキニ）（イト學）
まゝして

十六 まゝして

まゝして 二例あり一例ハ里同又 それとあるふ とそ
（ソナヘアルニ）
あれわる秋乃在そて何ツリモ何ツ
二例ハ里 ぞいまゝて るどうぐ
古 秋くきこれ秋をそこあるめるせとも
（何ヨリモ）

又拾遺長谷の寺にて花枝村よりぞ枝村よりぞ
枝はあらじとよめるは いとんやとて 知らぬ 只同ど
公乃物ぞ 公乃物ぞ

七

うれ　みるうら

みる　里　すまうとて　花ぞうらぐ　ぞ　ぞ　ぞ
人よ　はうれも　物よ　はぐれも　るぞ　れ　ぬ　べ

皆人といふ 祖をこの 公乃

花もみるちりぬるやとゆく春のみる所にうそなりぬつ
るくるるうらよりみれうみとなりるんなる 浦よるれるべく

うれ　あべて　とゆうる 同　里　どれもよりうるめて　とよ

紫乃一ゆゆうりむうら乃 紫はみるうらあつれとそみる

六

むけ

むけ　里　うらして　祖うら　るどよ　父よはれる　何也

わすれ　ゆ　人の　さうふ　ものきう　むうよこ　とよむ　ふりあうら
清少　今東京ニシテ　子カラ　イコヤ　子カラ　イイ　バスデハナケレド

ちうきことと　わうあうら　の　祖　が　宮　て　むかうよ　ん　ま　れ　ら　ん　ま　ぬ
オンダコ清　子カラ　オンダコ清

むへ　むへも　むへそ　むへうそ

九

むへ　うべ　とかくぶ　中義　れど　中どよりふ　かり　里

道理でとよ

吹　うう　して　祖乃　ゆ　ま　木　は　ま　る　ま　ま　ま　見　を　あ　う　と　ら　ん
ト云トハヤ　ルニヨツテ　道理デ　デ　ム

父　ゆ　れ　ま　の　か　ま　不　ま　吹　ぬ　ま　ま　ま

墨よ【道理こそ】乃理でこそ【などいふも同じ】

古 このとのゐむへもとゐんくらさ犯くさ敷つるやり

道理カナ

ふそ見乃すくゐ秋ゐ日といむ毎もいひるも

サテモ　テシニフコカナ　ダウリカナ　フタモノチキ

同 こうゐ人むそ犯いくゐ乃ゐ

ダウリコソ　テシニフタノカナ　テシニフタノカナ

拾 乃へゐれそゐれつゐくゐむへうそ

道理デコソ　テシニフタノカナ

むま

【むま】【いま】といふ事也むへ行人のつねは【今】といひる詞乃

カ毎うふをきこてるゆゐ

馬よりもて乃ゐよりめり

古 あつまゐ

晴於日記 なりいゐ毎人もゐるてゐみゐ乃くゐ

ツニヨリテ　ルツヂナ　ツニヨリテ　ルツヂナ　ツニヨリテ

わゐゐ

【かゐゐ】和名抄に專訓毛波良事とゐ義也されどこれは

よこ文ゐかゐる八今里言ゐ【ゆつゐ】といふ詞とはゐるで

かゐぬやうゐきこゆ里ゐ【ふつと】といふ詞ゐるとや叶べうん

古 あつ毎ゐ乃ゐゐてあるゐ時ゐこそ人乃ゐひきこゆもゐ

フツト　テシニフ　ソコデ　ソコデ　ヤウニナレ

伊勢よりゐ乃ひゐでゐゐんをでとあるゐ乃ひゐゐよ

乃ゐつとゐるぬゐゐ源氏物語よりゐ乃ゐゐけゐゐ

かゐらゐりてとかゐゐもふつとゐゐ

わ　わを

【ゐ】【ゐ】里同じ【あてゐ】ゐ乃ゐ同也【わ】【を】も里同

於 あゐもなきかつゐき山をふゐ乃ゐ乃ゐわゐゐ

来タ

形 今はかり君ゆへとこそ思ひなれ
板 わが身をあいなんものとなげかるる
形 古いにしへ人をうらめしの人もあり
ものとも

九三

ものとに 里よとも〳〵よ といへ ふるよ ふることを
ていへり ものとも は双文を
古 とともにたなきてとめきりそ林の別はそ〳〵あはぬ
板 ものさとは世をうくとゆくめるをいさあるとにわれつこてん
やくと

九四

金くと 里言 ものごとみて 又せいごーて といふ事ふるて今も
やくと といふ わざと といふ べきあるようきこゆるよ ある人き

樣 れまて乃命もしら吹きのうとそ北のあるあを金くとやく
ハ セイダンテバカリ
やくとのゝ 枕乃下よちわれて久〳〵ゝえをぬとこはるゝ
やよわ やよ

九五

やよわ **やよ** 公さしてうらぶるよ 里 **これるう** とい
古 コレナウ
金くとやまて山かゝきはるとつくんあるあるよ 伊
源 イヒクウニサセモ
いくやくもいつよあをなやむ 里 **ゆ** とるあ
ハ コカナ コレナウ ドウヂヤ
ものゝ公乃ものやいふととの人をあ
デムラウ サニ
形 ナウ コレ ドウヂヤカ
やよ〳〵ゝ迄ものゝ被乃るりやそ人乃まてうるあまん
ヂヤカ グン
形 ニンテミタラ イニシテ
やよ〳〵ゝ迄ものゝ被乃るりやそ人乃まてうるあまん
ウキグ

九六

やゝ 里 **よかと** **よつかと** るどいて
板 ヨホド
萩乃ちゝ色金くとうらそくかとやるにるとゝ所ゝ
ナゼ チヤ

秋かけぬるもやそのきりてをかけそもよもすの月

やうて

やうて　墨言　うれまくよすぐしてうりもるかとぞ　などらんなどの

乃ほれるあるををくまこるくつ川乃事のくあをと

あるくるいやてくへ二條と冷泉とゆくぎ事れあるく

二条へゆくとて冷泉ハ乃ゐるれかゐの事をもはまこまくるれ

乃ほをいへべ

こてもいくそまいこのひちくきこゆるれやうてかまくひ秋のゆとるれて

わう金とのゆ乃ゆをくとよもて色くもけるわまれ草ゆ

よ形山やうてとくとて金を花ちりあくと人ガやるけんて

よ　よ　よ　よ

よ　墨言　よ　よ　又　よ　いとも　ゆ　よ　ゆ　事　ゆ　う

よそせんくをるれば　よ　ゆ　てうちすてくる　ゆ

くをこ乃ゆ　ゆ　ゆ　ぬ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

よくさくハ涙よくち　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

めくれだかるで公也さて

又よのよりもたわきに網也

里よ

よるハ

よるもよりおくよるもハ

これを公えて今いるで

よるもハ

おそろしく何まのといて網なり

千つもよりもまるしゆるめ

何のいろいろ

よるハ里よ

けつして何すまのハといて

よをこめて有れそうねなるとも

よふもハ里にどうして事がありても何まのといて

なるも石のそうこれ乃ちかるよりもあるもの

わすれるんよりもいろいろ

かるもの事ハ何れでさ

河せきとめるいろまの水も

然ハ下にくかるよ

おろつくるもの

大くるくハ

大くる里全体又ひとくりの乃公あり肝要ハ

てそれをさに網るゆるつ

もいてくるも大くるの大くるもの大くるよりもよりあるハ

つくるも林ハ

あ一のおくるの乃大くるあるこ

大くるハ偏よくくもひくくて

事まかくりて公つぎりに

らてこれなでくるるる

せめて、とゝ[ヨクク思カヘシテミヨ]ひつゝ、[長ヨクク思カヘシテミヨ]人をもめてこれ[ガカリ]ぞこの つれ人乃れいとなるもの。[キヤツ]
[何ヤヤヲノレ]なりなりこゝ[ハ]なるも我名ぬ[ウラヒ]ぞ[ハ]りん[ム]りのつまとゝ[ウ]なかてん

おゝなへて

わるへて 里 **おくるめて** **とけべてあ** **まとゝ** **行** **とゝ**

よつけてるべて**ゝ**ろも力あるゝ何とるれり。ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**國ゝ**ゝ**き
物をも。[ヲ]淀よ河るゝ**ゝ**てゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ乃
ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**ゝ**

繼千 雲風ハ花ちらへくもふるぬ日よ　おのれうつろふ　ゆくさくら　邪

山例度世ふり行ぬ　又まさくく　おのれとらすよあり

昔ふみんぬ　初也　二例　里　ふるてすへぐりとらさられも後

世のふるもと

千三 風あるよ山田の庵よ秋田の除ふくやおのれ風をみる　ハ

新千ス新拾ス　山くのよ　おいきぬちよをも　犯ふめて　おのれうつろふ　きく　武花

おろかなり　但同又　おやんと　ひとりでよ　ふるぐりく

千 花ちるこの下かけそなつ　のつくるめぬ　ふくそ　何ニシズ　ふる

新 なつ　ヒトリデニ　すしもあるら　夏　秋日ゆゆ　ふるの　ぬちふるよ

又面　すよひ　ふるぐりくとを　但ふよ　自花　ふく

つ夏ふる例　ふ

世代をも年をも　よ　よとこいられば　よりて　よりて　ふくわよ

よをへて　なぐみるふ　ふよりてきふる　初ふれど　ふくへよ　初

月いひるれてえ　ふのよんと　ふへども　ふくとうまで　ふく

ふぐ　ふて　よみいぐすも　つ　ふ　也　彼　時代　みよみき

あれば　一例　とて　更へ

わきて

わきて　但　ひとりわきて　又　ぐん　ふて　ふべて　ふうく也

数あるめ　中をふれ　くよえりわふる　ふる

月かそいかの　光ふきのよ　ギヤニ　ヴニダツテ　こゆふふて　ふなりかり

千 大ふ　ふ面ハわきて　トリワキテ　ふそふ　ふ　ふ　

おもひ出

里月

おもひ出

とも

あくがれ(アツクメラ)て秋の月と花とをなぎ(オナジ)こと(コトナラ)なるものは(オナジ)こと(コトナラ)ならんと人目みをくやし(ソデ)ぬらん人よりはこれめ(ウズ)

花のうへ　おもひ出

おもひ出

里

自分の

又

自分の

とて又おもひ出がうれしきあまの

花のうへにうまれくるとおもひ出

てめいく又うれしく乃と惟ひ

春の夜のあさぼらけ(明テ)の月のいとしろく(白)ありをあはれ(ニ)

ゆきつもる花のうへ(シモノ)をそ(ア)ぬ(ア)ぬ(ア)ぬ

各宗書籍製本發賣所

京都市下京區花屋町通油小路東入山川町五番戸
發行者　永田長左衛門

京都市下京區上珠數屋町東洞院角
大賣捌所　永田榮次郎

東京市淺草區東中町五番戸
同　吉田久兵衛

肥後國熊本市新二丁目
同　長崎治郎